

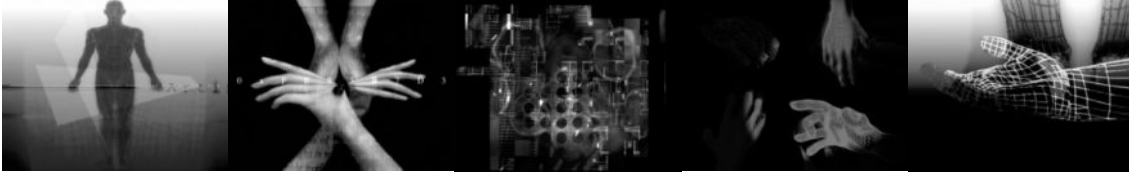
CsO

作曲/パフォーマンス：後藤 英

VJ：710.beppo

グラフィックデザイン：小島 一郎

演奏時間：約30分



作品の基本コンセプトは、Artificial Body and Real Bodyのプロジェクトに由来している。シアター形式の要素も彷彿させられる作品。テキストは、フランスの詩人、アントナン・アルトーの「神の審判と決別するために」と、フランスの哲学者、ドゥルーズ+ガタリの「千のプラトー」に基づいている。この作品のタイトル、「CsO」は、両方のテキストに共通して使われるテーマ、「Corpsans Organes」（器官なき身体）に由来している。

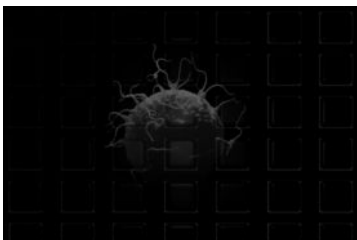
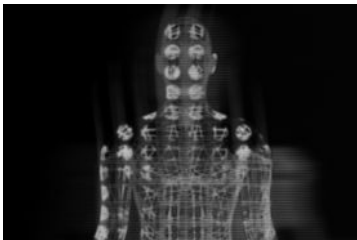
上記の作品より引用され、さらに編集されたテキストは、Artificial Body and Real Body（人工の身体と本物の身体）というテーマにもとづいているが、ストーリーを語るようなものではなく、このテキストは人間によって語られるだけでなく、人工の声、そして、ステージ上のスクリーンのビデオ・イメージでも表れ、言葉をむしろ抽象的に、そして、アイコンのように扱うのが目的とされている。

この作品での、ビデオのイメージでは、本物の人間の身体

映像を加工したものと3Dのヴァーチャルな人間の身体イメージが含まれる。ヴァーチャルとリアルな身体の関係、映像のなかでも本物と3Dの身体の関係、3Dのヴァーチャルな身体と本物のパフォーマンスの身体の関係など、ヴァーチャルと本物が入り混ざって、ある時はヴァーチャルであったものが、次の瞬間には本物であったりするようなことが繰り返される。一種の混乱させるかのようなものであり、また、アーティフィシヤルとリアルがパズルのように入り交じって進行していくのが、この作品でのアイデアでもある。

部分的に、インタラクティブにビデオ・イメージもリアルタイムで変化をする。手に持った光のシステムがこのために使われる。ビデオカメラが空間での身体の動きを認知して、音と映像をリアル・タイムで操作するのにシグナルを送る。

Artificial Body and Real Body、つまり、人工の身体と本物の身体であるが、これはそれぞれの意味は、反対、または、対立する関係にあると言える。しかし、同時に、似通っているものの微妙にずれも表している。



後藤 英

1966年生まれ。アメリカ、ボストンのニューイングランド音楽院、そして、ドイツのベルリン芸術大学、ベルリン工科大学などで学ぶ。作曲をアメリカにて、アール・ブラウン、ロバート・コーガン、ルーカス・フォス、ドイツでは、ディーター・シュネーベル、フランスではIRCAMにてトリスタン・ミュライユとブライアン・ファニーホウに学ぶ。

主な賞歴は、ボストン・シンフォニー・オーケストラ・フェローシップ、タングルウッド音楽祭より、ターセヴィツキー賞、ワシントン州のマルゼン国際作曲コンペティションにて第1位、ドイツにてベルリナー・コンポジション・アウトローグ1994、パリのユネスコで行われた、IMC国際作曲家会議にて入選などが挙げられる。

作品は世界各国の音楽祭、タングルウッド音楽祭、アスペン音楽祭、インヴェンション・ネン、CICV-ニュー・サヴォロース、ICC、エレクトロフォーリー、インターナショナル・シアター・フェスティバル・ベレリリア、秋吉台、SONARなどで演奏されている。

1995年、マルティ・メディア・オペラ作品、「NADA」がベルリンのシャルシュピール・ハウスにて演奏される。同年より、IRCAMにてコンピューター音楽を研鑽し、その後、研究員として、ジェスチュアル・インフォマティクスの開発に携わる。1997年、カナダのモントリオール音楽院よりの招きで、コンポーザー・イン・レジデンスとして1ヶ月滞在する。2000年、東京フィルハーモニーによりオーケストラ作品、Resonance-IIがオーチャード・ホールにて初演された。作品は、アメリカ、イギリス、イタリア、ドイツ、フランス、ウクライナ、スペイン、カナダなどで演奏されている。作品は、ドイツのエディション・ヴァンデルヴァイザーより出版、「Onomatopoeia and Montage」は、ドイツのアカデミー・デア・クンストより、CDに収められている。

vokoi kazunovsky

I exercised as submariner by MURMANSK. After graduation. I emigrate to Japan which was studying from before. I majored in SPACE DESIGN in Aichi Prefectural University of Fine Arts and Music. The research on a place and expression is begun from this time. 2000. I majored in DSP in Institute Of Advanced Media Arts And Sciences.

The music project ARch is started on the theme of a place and music. Activity by the solo is begun completely. and this after drop out IAMAS in 2002. It continues till present. I like a traditional trip.

小島 一郎

1979年生まれ。2002年IAMAS 岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー卒業。現在、同校研究生。絵画、写真、グラフィックデザインをベースにメディア表現の研究及び制作を行っている。

プロジェクト「ArtificialBody and Real Body」のマケット、DSPサマースクール、現代音楽レーベル「Steinhand」のアートディレクション、デザインを務める。